

平成26年2月28日 実証実験結果報告会発表資料

名称	公立学校法人 首都大学東京				
設立	2005年	資本金		従業員数	1350名
代表者	学長 原島文雄	TEL	03-3819-1211	FAX	03-3819-1406
連絡担当	井上 薫				
所在地	〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10(荒川キャンパス)				
会社HP	http://www.tmu.ac.p				
事業概要	2005年に都立4校の大学、短期大学が合併して誕生した公立学校法人。				
特徴・セールスポイント	本部は八王子市南大沢キャンパスに設置されている。 荒川キャンパスに設置されている健康福祉学部は、看護学科、理学療法学科、作業療法学科、放射線学科の4学科から構成され、医療従事者を育成、医療・福祉に関する研究に取り組んでいる。				

1. 応募のきっかけ（ねらい）

＜先行研究＞アザラシ型ペットロボットPARO（株式会社知能システム）の認知症高齢者に対する効果検証

PAROとは
柴田博士（産業技術総合研究所）開発した高性能ペットロボット
PARO.jp



→PAROはコミュニケーションの促進、うつ、不安、不穏、孤独の軽減に効果があることが既に証明されている。
(PAROは言語を話す機能はない。)
→言語を媒介としたロボットサービス
新たな現場のニーズの発掘・検証が必要



認知症をもつ高齢者に対し

PALRO（富士ソフト株式会社）を使用したサービスは

- ・どのような効果があるのか。
- ・PALROの機能およびプログラムの改善点は何か。

2. 実証実験

(1) 実施概要

神奈川県内の5施設の入居者、のべ100名の認知症をもつ高齢者を対象とし、コミュニケーションロボット「PALRO」を使用したレクリエーションを実施し、その効果を認知症ケアマッピング(DCM)法※を用いて評価した。得られた結果より、パルロのプログラムについて、臨床で広く使用するために満たすべき点を抽出した。

(2) 結果

活動実施中は実施直前よりも高齢者らは良い反応を示し、直後は良い状態が保たれていることが示された。PALROを使用したレクリエーション活動は、認知症をもつ多くの高齢者の良い状態を引き出すことが示された。また、PALROの機能およびプログラムの課題が抽出された。

※認知症ケアマッピング:トムキットウッド博士(社会心理学者・イギリス)により提唱されたパーソン・センタード・ケアの理念に基づいて開発されたケアの質を評価する手法



3. 今後について

今回の調査は、短期的効果があること、認知症高齢者にとってパーソン・センタード・ケアの理念において良い活動であることを定量的分析により証明した。

今後は、今回対象としなかったPALROの機能についての検証、およびより非薬物療法の一つとしての治療的意義、長期的効果を調査する必要がある。

